

令和元年度 耕心館ジュニア・ピアノコンテスト本選会 審査員講評

審査委員長

中井 恒仁 先生

皆様、本選出場おめでとうございます。

今年は新型コロナウイルスの影響で、本選の日程が遅くなりましたが、その間、皆さんが一生懸命練習していたのを感じることができ、大変嬉しく思いました。主催者の皆様には、予防対策をしっかりと行いながらこのように公開の場で演奏できる機会を作ってくださいありがとうございます。出演者の皆さんにとっても、特別な会になったことと思います。

a)の部 (小学校3年生以下)

音楽を素直に感じ、表現できている方が多かったですね。メロディ、和音、リズムが音楽の3要素ですが、それを自然に感じ、そのまま音に表せるということは、今後ピアノを続けていく上で最も大切なことの一つです。外国語を小さいころから接していると自然に話せるように、音楽もたくさんの演奏を聴いていると、このような感性が芽生えてくるのではと思います。

また、自然な奏法をこのころから身につけていってほしいです。小さいお子さんに、手の形や腕の使い方を伝えるのは難しいですが、そのことも意識しながら根気よく練習に取り組めると、今後の伸びが大きく変わってきます。ピアノを演奏する作業は、左右の手も指も別々に動かすとても複雑なものですが、同時にたくさんの意識をもって弾けると、運動神経も頭にも良い訓練になると思います。

b)の部 (小学校4・5・6年生)

技術的にもレベルが高く、また「この曲をこのように演奏したい。ここはこのように表現したい。」というしっかりとした主張の感じられる素晴らしい演奏にも沢山出会えました。是非専門的にピアノの勉強を続けてほしいと思う方が多くいらっしゃいました。

今回のように特別に広い会場でも、聴いている方々に「音楽への思い」や「曲の魅力」を伝えることは大切ですね。これは、ピアニストになっても一生の課題です。そのためには、音楽を感じる、気持ちを込める、一生懸命弾くことはもちろん必要ですが、それだけでなく、どのようなタッチにしたら、どのように響くの

かをよく聴きながら弾くことが重要です。いつもそのように練習していると、音の中身を聴き分けられるようになり、ちょっとしたことで大きく変わるピアノの音色や表情に気づき、それを探求することでピアノの練習も楽しくできるのではと思います。

c)の部 (中学生)

ピアノへの向き合い方は皆さんそれぞれあると思いますが、中学生になるまで長くずっと練習して来られたことは素晴らしいと思います。中学生ともなるとピアノを本格的に取り組みされており、このまま専門的に勉強して、将来ピアニストへの道を進んでほしいなと思う演奏もいくつかありました。

今回の様な公開の場所で弾く機会を持つこともなかなかないと思いますが、この様な広いホールでは、お客さんに音を届けることを大事にしてほしいです。ピアノは音量が大きくなればそれだけ響きますが、お客さんに届く音は音量だけではありません。音に心が入って届くもの、打鍵のタイミングによって楽器が無理なく響くことによって届くものなど、技術的な事や心の事をお客さんの方に向きながら、広い空間でいかに耳を使って弾いていくかがとても大切です。自分が弾いていることがどのようにお客さんに伝わるかを考えられる聴き方が上達のポイントとなります。

音というのは何でも耳に入ってきますが、人間の耳は都合のいいように良くできています。聴きたい音だけを聴くことができますし、客観的に全体を細かく聴くこともできます。例えば、自分の演奏を録音して集中して聴くと、自分の音だけしか聴くことができませんが、客観的に聴くと周りの雑音も聴くことができます。普段は自分の音だけを集中して聴きたくってしまうもので、演奏にもそういったところは現れてきます。客観的に聴くことができれば、全体的な響き、空間、雰囲気の中でどういう音色でどんなバランスで弾いているかを聴くことができますので、実際の演奏の時にもいろいろな音を聴きながら演奏することができます。しかし、それを冷静に聴こうと思うと心が冷めてしまうこともありますが、聴くことと表現したいことの気持ちのバランスを取りながら練習することは一生続いていくこととなります。そろそろ皆さんもその段階に入っていると思います。

是非、耳を大切にして練習して欲しいなと思います。

これからもがんばってください。

審査員

本田 聖嗣先生

a)の部 (小学校3年生以下)

「子供サイズ」が存在しない大きな楽器であるピアノに挑戦し、みなさんそれぞれ難しい曲をしっかりと弾かれていて、とても好感が持てました。大きなピアノを、千人の大きなスカイホールで弾いた感触はいかがだったでしょうか？ 耕心館の時とはまた違った体験だったと思います。

ピアノは、大きい音、小さい音の変化だけでなく、重い音、軽い音、深い音、浅い音、きれいな音・・・などたくさんの種類の音が出せます。

そして、音楽にも、メロディ、リズム、ハーモニーなどたくさんの要素があります。

ピアノを弾くということは、楽譜から読み取った音楽を、上の要素を組み合わせていくことなのです。ちょうど画家さんがパレットの上の色を複雑に組み合わせて、キャンパスの上に絵を描いていくのと似た作業です。普段の練習も、「同じ曲」を何回も練習しているように思えますが、毎回、いろいろな挑戦ができるのです。これからも、ピアノという楽器を使って、素敵な絵、つまり皆さん自身の音楽を描いていってください。その時は、「自分の音をよく聴く」と同時に、「他の人の演奏を聴く」ということも大変勉強になると思います。

b)の部 (小学校4・5・6年生)

ピアノを始めて数年以上たち、難しい曲が弾けるようになったみなさん。私が予想していた以上に難しい曲を自分のものにされていて、とても驚きました。

バッハやヘンデルといったバロック時代の古い曲を除けば、みなさんが弾かれた古典派から現代に至るまでの曲は、大体「ホモフォニー」と呼ばれる構造でできています。(バロック時代は反対にポリフォニーでできた曲が多いのです。) ホモフォニーとは、メロディが1つで、その他大勢はみな伴奏、という、我々がポップスやジャズなど他のジャンルでも親しんでいる音楽です。

こういった曲を弾くときに重要なことは、まず「メロディを出す」ということです。みなさんが思った以上にメロディは大きく弾いていいのです。そして、ホールはよく響きます。ペダルも、低音部もおうちで練習しているときより、フル・コンサートグランドピアノでは大きな音が出ます。なので、大きなホールでの演奏の時は特に、もちろん普段でも、「メロディが、聞いているお客さんに聞こえているかな」ということを気にかけてください。それだけでも良い演奏になると

思います。また、みなさんが弾いたような名曲は、作曲家が実に細かく、強弱や、スラーや、テンポも指示しています。楽譜をよく読んで、のびやかなメロディを奏でてください。その練習の過程で、作曲家のおもわぬ意図が発見できたりします。そして、より一層、素敵な曲に聞こえると思います。

c)の部 (中学生)

もう大人の曲、ピアニストがレパートリーにするような曲たちを立派に弾かれていて、感心しました。みなさんとてもお上手です。演奏家としての雰囲気も感じられました。

さらに、表現力を磨くためには、中井先生も講評で触れられていましたが、より深い音、大きいわけではなく、「遠くに響く音」、などを研究していただければと思います。ピアノは合計 20 トンもの力で弦を張ってある強力でパワフルな楽器です。みなさんが思っている以上に、フルコンサートグランドは、ダイナミックな音が出ます。二千人収容のホールで、電氣的増幅手段を全く使わずに、ホールを音で満たせるのですから！

なので、「今の演奏」に決して満足せず、コロナウイルスのせいで機会は減っていると思いますが、またスカイホールのような大きなところで弾ける時のことを思って、「ダイナミックで深い音、デリケートで繊細な音」など、表現の幅を広げてください。その「表現の多彩さ」が心を動かす力、人々を感動させる源、となるのです。

審査員

大嶺 未来先生

a)の部 (小学校 3 年生以下)

本選会への出場、おめでとうございます。

皆さんが心から音楽を楽しんで歌っているのが伝わりましたし、素直な子供らしい演奏を私も楽しく聴かせていただきました。選曲も、技術的なもの・音楽的なものとありましたが、それぞれが曲想を捉えた表現をされていて、甲乙のつけがたい部でした。1つアドバイスするなら、音の粒やテンポがより安定すると、もっと良くなるのではないかな、と思いました。これからもたくさんのピアノ曲を学んで、色々なパッセージやテンポの曲に触れてみてください。皆さんの成長を心から応援しています！

b)の部 (小学校4・5・6年生)

本選会への出場、おめでとうございます。

レベルの高い選曲でしたが、皆さんの演奏が安定していて、とても感心しました。また自分の曲の表現すべきところをしっかりとキャッチして、のびのびと演奏されていたのが素晴らしかったです。この部では、「ホールでの聴き方」を養っていく年頃ではないかと感じました。広いホール・大きなピアノで弾くということは、家での演奏とは違ってくるのですよね。例えば家ではちょうどよかったペダルの量が、ホールでは反響・残響で濁る場合もあります。ホールでの響きを聴きながらその場で修正できるか。これはホールで弾く経験からしか得られないものです。今回の皆さんのステージも、きっと将来の糧になると信じています！

c)の部 (中学生)

本選会への出場、おめでとうございます。

Cの部になると、ぐっと大人っぽい演奏が増えました。古典派から近現代までさまざまなスタイルの曲が並び、皆さんのよくまとめられた演奏の中で点数をつけるというのは難しいことでした。また皆さんの持つ音色がカラフルで、誰一人割れた音や叩いた音を出さなかったことが、とても素晴らしいと思いました。中学生になると、演奏する曲も大きく長くなるので、自分の想いや表現だけでなく、「構成」もより大切になってきます。フレーズ・和声・形式などがクリアだと、より説得力のある演奏になると思いました。ピアニストを目指す子、勉強や部活との両立を目指す子、ピアノに取り組む環境は様々だと思いますが、皆さんがこれまでに学んでこられたピアノや音楽を心より楽しんで聴かせていただきました。熱演をありがとうございました！